



Cisco UCS C3260 システム ストレージ管理

- [ストレージサーバ機能およびコンポーネントの概要 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco UCS C3260 ストレージ管理操作 \(11 ページ\)](#)
- [高可用性のためのディスクの共有, on page 12](#)
- [ストレージエンクロージャ操作, on page 18](#)
- [SAS エクスパンダ設定ポリシー, on page 19](#)

ストレージサーバ機能およびコンポーネントの概要

ストレージサーバ機能

次の表に、Cisco UCS C3260 システムの機能の概要を示します。

表 1: Cisco UCS C3260 システムの機能

| 特長 | 説明 |
|-------|--|
| シャーシ | 4 ラック ユニット (4RU) シャーシ |
| プロセッサ | <ul style="list-style-type: none">• Cisco UCS C3260 M3 サーバ ノード: 各サーバ ノード内の 2 つの Intel Xeon E5-2600 v2 シリーズ プロセッサ。• Cisco UCS C3260 M4 サーバ ノード: 各サーバ ノード内の 2 つの Intel Xeon E5-2600 v4 シリーズ プロセッサ。• Cisco UCS C3260 M3 サーバ ノード: 各サーバ ノード内の 2 つの Skylake 2S-EP プロセッサ。 |
| メモリ | 各サーバ ノード内で最大 16 個の DIMM。 |

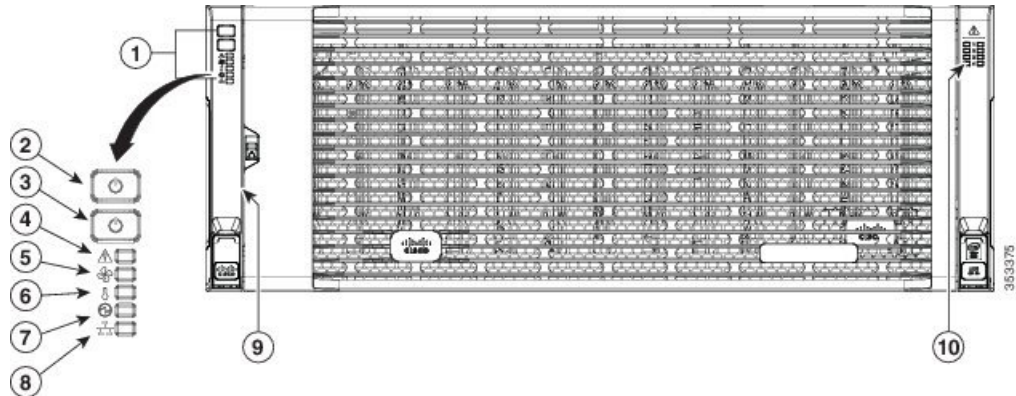
| 特長 | 説明 |
|--------------|--|
| マルチビット エラー保護 | このシステムは、マルチビット エラー保護をサポートします。 |
| ストレージ | <p>システムには次のストレージ オプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最大 56 台のトップ ローディング 3.5 インチ ドライブ • オプションのドライブ エクспанダ モジュール内に最大 4 台の 3.5 インチ、リア ローディング ドライブ • 最大 4 台の 2.5 インチ、リア ローディング SAS ソリッドステート ドライブ (SSD) • サーバ ノード内部の 1 台の 2.5 インチ NVMe ドライブ <ul style="list-style-type: none"> (注) これは S3260 M4 サーバにのみ適用されます。 • サーバ ノード内に 2 台の 7 mm NVMe ドライブ <ul style="list-style-type: none"> (注) これは、S3260 M5 サーバのみに適用されます。 • IO エクспанダのサポートされている 2 つの 15 mm NVMe ドライブ |
| ディスク管理 | <p>このシステムは、最大 2 台のストレージ コントローラをサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各サーバ ノード内に Cisco ストレージ コントローラ カード用の専用メザニン形式 ソケット 1 基 |
| RAID バックアップ | supercap 電源モジュール (SCPM) は、RAID コントローラ カードにマウントされます。 |

| 特長 | 説明 |
|-----------------|---|
| PCIe I/O | <p>オプションの I/O エクスパンダは、8x Gen 3 PCIe 拡張スロットを 2 つ提供します。</p> <p>リリース 3.2(3) 以降では、S3260 M5 サーバで次をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Intel X550 デュアルポート 10GBase-T • Qlogic QLE2692 デュアルポート 16G ファイバチャネル HBA • N2XX-AIPCI01 Intel X520 デュアルポート 10 Gb SFP+ アダプタ |
| ネットワークおよび管理 I/O | <p>システムには、システム I/O コントローラ (SIOC) を 1 つまたは 2 つ搭載できます。それにより、背面パネル管理とデータ接続が可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SIOC ごとに 2 つの SFP+ 40 Gb ポート • SIOC ごとに 1 つの 10/100/1000 イーサネット専用管理ポート <p>サーバノードごとに、KVM ケーブルで 2 つの USB を接続できる 1 つの背面パネル KVM コネクタ、1 つの VGA DB-15 コネクタ、1 つのシリアル DB-9 コネクタがあります。</p> |
| 電源 | 2 台または 4 台の電源装置、各 1050 W (ホットスワップ可能で 2+2 冗長)。 |
| 冷却 | <p>前面から背面に冷却を引き出す 4 つの内蔵ファンモジュール、ホットスワップ可能。各ファンモジュールには 2 つのファンが内蔵されています。</p> <p>さらに、各電源にはファンが 1 個あります。</p> |

前面パネルの機能

次の図に、Cisco UCS C3260 システムの前面パネルの機能を示します。

図 1: 前面パネルの機能

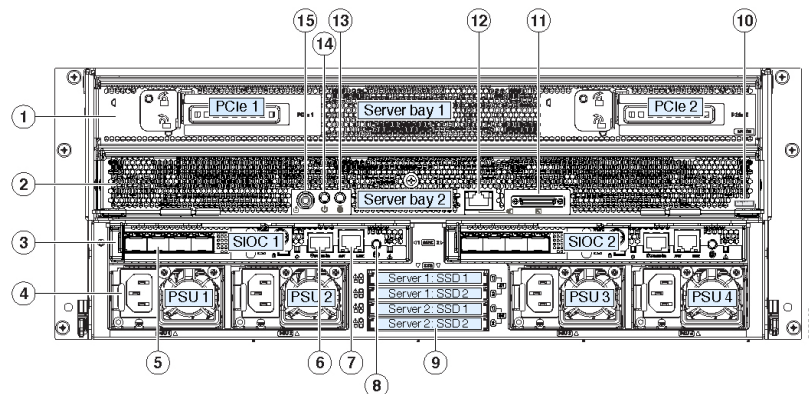


| | | | |
|---|-------------------|----|-----------------------------|
| 1 | 操作パネル | 6 | 温度ステータス LED |
| 2 | システム電源ボタン/LED | 7 | 電源装置ステータス LED |
| 3 | システムユニット識別ボタン/LED | 8 | ネットワークリンクアクティビティ LED |
| 4 | システムステータス LED | 9 | 引き出し型の資産タグ (前面ベゼルの下に表示されない) |
| 5 | ファンステータス LED | 10 | 内蔵ドライブのステータス LED |

背面パネルの機能

次の図に、Cisco UCS C3260 システムの背面パネルの機能を示します。

図 2: 前面パネルの機能



ディスク スロット

| | | | |
|---|---|---|-------------------|
| 1 | <p>サーバー ベイ 1</p> <ul style="list-style-type: none"> • (オプション) I/O エクスパンダ (図を参照) (Cisco UCS C3260 M4および M5サーバノードのみに搭載) • (オプション) サーバノード • (オプション) ドライブ拡張モジュール | 8 | 現時点ではサポートされていません。 |
| 2 | <p>サーバー ベイ 2</p> <ul style="list-style-type: none"> • (オプション) サーバノード (Cisco UCS C3260 M4および M5に表示) • (オプション) ドライブ拡張モジュール | 9 | 現時点ではサポートされていません。 |

| | | | |
|---|---|----|--|
| 3 | <p>システム I/O コントローラ (SIOC)</p> <ul style="list-style-type: none"> • サーバ ベイ 1 にサーバ ノードがある場合、SIOC 1 が必要 • サーバ ベイ 2 にサーバ ノードがある場合は SIOC 2 が必要です | 10 | <p>ソリッドステートドライブ ベイ (最大で 4 つの 2.5 インチ SAS SSD)</p> <ul style="list-style-type: none"> • ベイ 1 および 2 の SSD には、サーバベイ 1 のサーバノードが必要です • ベイ 3 および 4 の SSD には、サーバベイ 2 のサーバノードが必要です |
| 4 | 電源装置 (4、2+2 として冗長) | 11 | <p>Cisco UCS C3260 M4 サーバノードのラベル (M4 SVRN)</p> <p>(注) このラベルは、Cisco UCS C3260 M4 および M5サーバノードを識別します。Cisco UCS C3260 M3 サーバノードにはラベルがありません。</p> |
| 5 | 40 Gb SFP+ ポート (SIOC ごとに 2 つ) | 12 | <p>KVM コンソール コネクタ (サーバノードごとに 1 つ)</p> <p>USB 2 個、VGA 1 個、シリアルコネクタ 1 個を装備した KVM ケーブルで使用</p> |

| | | | |
|---|---|----|-------------------------------------|
| 6 | Chassis Management Controller (CMS) のデバッグファームウェアユーティリティポート (SIOC ごとに1つ) | 13 | サーバーノードのユニット識別ボタン/LED |
| 7 | 10/100/1000 専用管理ポート、RJ-45 コネクタ (SIOC ごとに1つ) | 14 | サーバーノードの電源ボタン |
| | | 15 | サーバノードのリセットボタン (サーバノードのチップセットをリセット) |

ストレージサーバコンポーネント

サーバノード

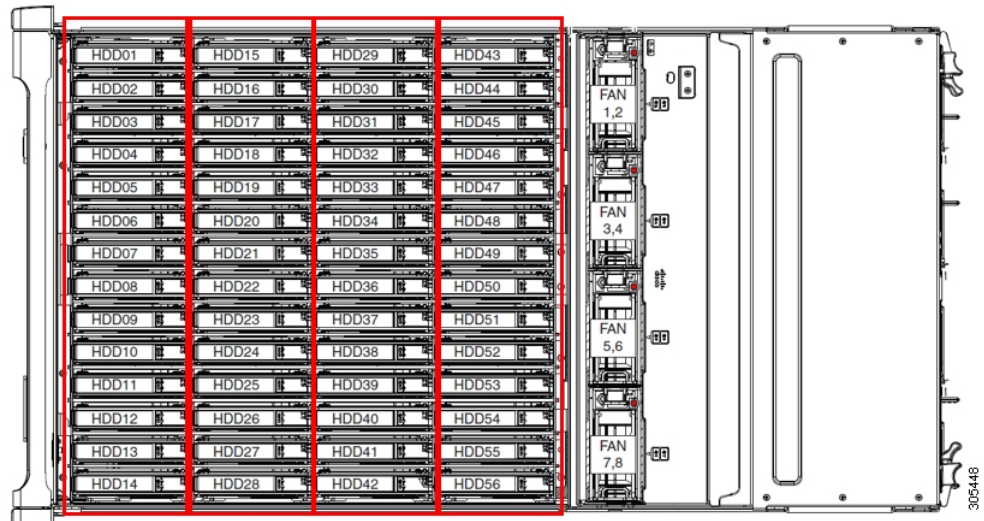
Cisco UCS C3260 システムは、1つまたは2つのノードから構成されています。各ノードには2つのCPU、128 GB、256 GB、または512 GBのDIMMメモリ、最大4GBのキャッシュのRAIDカードまたはパススルーコントローラが備わっています。サーバノードは次のいずれかです。

- Cisco UCS C3260 M3 サーバノード
- Cisco UCS C3260 M4 サーバノード：このノードに、サーバノードの上部に接続するオプションのI/O エクスパンダが含まれる場合があります。
- Cisco UCS C3260 M5 サーバノード：このノードに、サーバノードの上部に接続するオプションのI/O エクスパンダが含まれる場合があります。

ディスクスロット

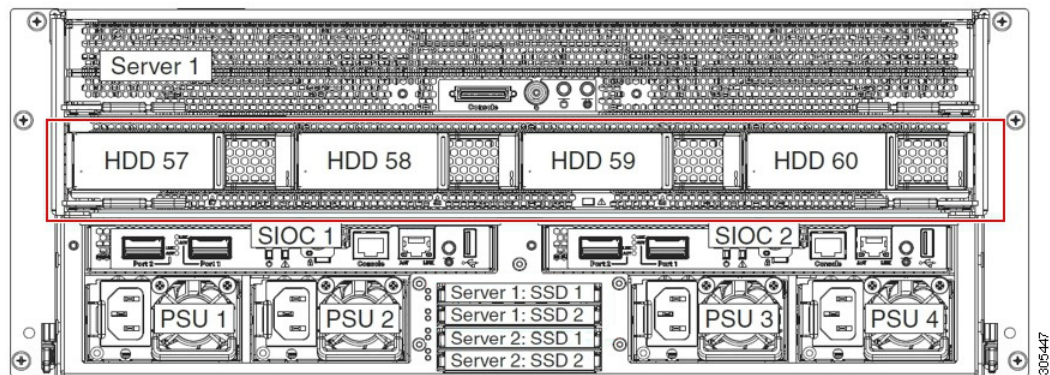
Cisco UCS S3260 シャーシのHDDマザーボードに14ディスクスロットが4行と、HDD拡張トレイに追加の4ディスクスロットがあります。次の図は、上面からアクセス可能でホットスワップ可能な56台の3.5インチの6TBまたは4TB 7200 rpm NL-SAS HDDドライブのディスクの配置を示しています。ディスクスロットに2つのSASポートがあり、それぞれがシャーシのSASエクスパンダに接続されます。

図 3: Cisco UCS C3260 上面図



次の図は、HDD 拡張トレイに 4 つの追加ディスク スロットを備えた Cisco UCS S3260 シャーシを示しています。

図 4: HDD 拡張トレイを搭載した Cisco UCS 3260 (背面図)



2 つのサーバノードと 2 つの SIOC がある場合、次の機能を使用できます。

1. 上のサーバノードは左の SIOC (サーバスロット 1、SIOC1) を使用します。
2. 下のサーバは右の SIOC (サーバスロット 2、SIOC2) を使用します。

2 つの SIOC を搭載した 1 つのサーバノードがある場合、Server SIOC Connectivity 機能を有効にできます。リリース 3.1(3) から、Cisco UCS C3260 システムでは Server SIOC Connectivity 機能がサポートされています。シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されている場合、この機能を使用して、プライマリ SIOC および補助 SIOC の両方を経由するデータパスを設定できます。

SAS エクスパンダ

Cisco UCS C3260 システムには、冗長モードで実行し、シャーシレベルのディスクをサーバのストレージコントローラに接続する2つのSASエクспанダがあります。SASエクспанダは、ストレージコントローラのために2つのパスを提供するため、可用性が向上します。それらには、次の利点があります。

- ハードドライブのプールを管理します。
- サーバのストレージコントローラへのハードドライブのディスクのゾーン設定。

リリース 3.2(3a)以降、Cisco UCS Managerは、ディスクスロットごとに単一のDiskPortを設定することによって、ディスクへの単一パスアクセスを有効にすることができます。これにより、サーバは単一のデバイスのみを検出し、マルチパス設定を避けることができます。

次の表に、各SASエクспанダのポートの、導入の種類に基づくディスクへの接続方法について示します。

| Port range | Connectivity |
|------------|-----------------|
| 1 ~ 56 | 上面からアクセス可能なディスク |
| 57 ~ 60 | HDD 拡張トレイのディスク。 |



- (注) ストレージコントローラとSASエクспанダ間のSASのアップリンクの数は、サーバに搭載されているコントローラのタイプによって異なることがあります。

ストレージエンクロージャ

Cisco UCS C3260には、次のタイプのストレージエンクロージャが備わっています。

シャーシレベルのストレージエンクロージャ

- HDD motherboard enclosure : シャーシの56のデュアルポートディスクスロットは、HDDマザーボードエンクロージャで構成されています。
- HDD 拡張トレイ : Cisco UCS C3260 システムに追加された4つのデュアルディスクスロットでHDD拡張トレイを構成しています。



- (注) HDD拡張トレイは現場交換可能ユニット (FRU) です。ディスクは挿入時は未割り当てのままであり、ストレージコントローラに割り当てることができます。ディスクゾーン分割の実行方法の詳細については、次を参照してください。 [ディスクゾーン分割ポリシー \(12 ページ\)](#)

サーバレベルのストレージエンクロージャ

サーバレベルのストレージエンクロージャは、サーバに事前に割り当てられた専用のエンクロージャです。次のいずれかになります。

- **背面ブート SSD エンクロージャ**：このエンクロージャには、Cisco UCS C3260 システムの背面パネル上の2つの2.5インチディスクスロットが含まれています。各サーバは2つの専用ディスクスロットを備えています。これらのディスクスロットはSATA SSDをサポートします。
- **Server board NVMe enclosure**：このエンクロージャには1つのPCIe NVMe コントローラが搭載されています。



(注) Cisco UCS C3260 システムでは、上記2種類のエンクロージャに物理的にディスクが存在することも、ホスト OS からは、すべてのディスクが SCSI エンクロージャの一部として見なされます。これらは単一SESエンクロージャとして動作するように設定された SAS エクスパンダに接続されます。

ストレージコントローラ

メザニンストレージコントローラ

次の表に、さまざまなストレージコントローラのタイプ、ファームウェアのタイプ、モード、共有およびOOBサポートを示します。

表 2:

| ストレージコントローラのタイプ | ファームウェアのタイプ | モード | 共有 | OOB サポート |
|-----------------|-------------|--------------|-----|----------|
| UCSC-S3X60-R1GB | メガ RAID | HW RAID、JBOD | いいえ | はい |
| UCS-C3K-M4RAID | メガ RAID | HW RAID、JBOD | いいえ | はい |
| UCSC-S3X60-HBA | イニシエータターゲット | パススルー | はい | はい |
| UCS-S3260-DHBA | イニシエータターゲット | パススルー | はい | はい |
| UCS-S3260-DRAID | メガ RAID | HW RAID、JBOD | いいえ | はい |

その他のストレージコントローラ

SW RAID コントローラ：Cisco UCS C3260 システム内のサーバは、SW RAID コントローラに接続しているPCIeライザーに組み込まれた、2つの専用内部SSDをサポートします。このコントローラは、Cisco C3000 M3 サーバでサポートされます。

NVMe コントローラ：Cisco UCS C3260 システム内のサーバによって、NVMe ディスクのインベントリとファームウェアアップデートにこのコントローラが使用されます。

さまざまなサーバノードでサポートされているストレージコントローラに関する詳細は、関連するサービス ノートを参照してください。

- [Cisco UCS S3260 ストレージ サーバ サービス ノート用 Cisco UCS C3X60 M3 サーバ ノード](#)
- [Cisco UCS S3260 ストレージ サーバ サービス ノート用 Cisco UCS C3X60 M4 サーバ ノード](#)
- [Cisco UCS S3260 ストレージ サーバ用 Cisco UCS S3260 M5 サーバ ノードのサービス ノート](#)

Cisco UCS C3260 ストレージ管理操作

次の表に、Cisco UCS Manager 統合 Cisco UCS C3260 システムで、実行できるさまざまなストレージ管理操作を示します。

| 動作 | 説明 | 次を参照してください。 |
|-----------------|---|------------------------------|
| 高可用性のためのディスクの共有 | <p>Cisco UCS C3260 システムの SAS エクспанダは、ドライブのプールをシャールレベルで管理できます。高可用性のためにディスクを共有するには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ディスク ゾーン分割ポリシーを作成します。 2. ディスクのスロットを作成し、所有権を割り当てます。 3. シャールプロファイルにディスクを関連付けます。 | このガイドの「ディスク ゾーン分割ポリシー」セクション。 |

| 動作 | 説明 | 次を参照してください。 |
|---------------------------------------|--|---|
| ストレージプロファイル、ディスクグループおよびディスクグループ設定ポリシー | Cisco UCS C3260 システムでストレージディスクの定義、ディスクの割り当て、および管理を行うには、Cisco UCS Manager のストレージプロファイルとディスクグループポリシーを利用できます。 | 『』の「Storage Profiles」セクション。 <i>Cisco UCS Manager</i> リリース 3.2 ストレージ管理ガイド |
| ストレージエンクロージャ操作 | サーバで、HDD 拡張トレイを交換するか、以前に挿入したトレイを取り外します。 | このガイドの「シャーシレベルのストレージエンクロージャの削除」セクション。 |

高可用性のためのディスクの共有

ディスク ゾーン分割ポリシー

ディスク ゾーン分割を使用してサーバノードにドライブを割り当てることができます。ディスクゾーン分割は、同一サーバのコントローラまたは異なるサーバのコントローラで実行することができます。ディスクの所有権は次のいずれかになります。

未割り当て

未割り当てのディスクとは、サーバノードに表示されていないものを指します。

専用

このオプションを選択すると、[Server]、[Controller]、[Drive Path]、およびディスクスロットの [Slot Range] の値を設定する必要があります。



(注) ディスクは割り当てられたコントローラにのみ表示されます。

リリース 3.2(3a)以降、Cisco UCS S 3260 M 5 以降のサーバでは、Cisco UCS Manager は、ディスクスロットごとに単一の DiskPort を設定することによって、ディスクへの単一パスアクセスを有効にすることができます。1つのパスの設定により、サーバが設定で選択されたドライブが1つパスでのみディスクドライブを検出します。シングルパスアクセスは、Cisco UCS S3260 デュアルパススルーコントローラ(UCS-S3260-DHBA)でのみサポートされています。

シングルパスアクセスが有効になると、3.2(3a)より前のリリースにダウングレードすることはできません。ダウングレードするには、ディスクゾーニングポリシーでディスク

スロットのディスク パスを**Path Both**に設定して、この機能を無効にし、すべてのディスク スロットを両方のディスク ポートに割り当てます。

共有

共有ディスクとは、複数のコントローラに割り当てられるものを指します。これらは、サーバがクラスタ構成で動作し、各サーバにHBAモードのストレージコントローラがある場合に絞って使用されます。



(注) デュアル HBA コントローラを使用する場合は、特定の条件下では共有モードを使用できません。

シャーシのグローバル ホット スペア

このオプションを選択すると、ディスクの[Slot Range]の値を設定する必要があります。



重要 ディスクの移行と孤立した LUN の要求：サーバ（サーバ 1）へゾーン分割されたディスクを別のサーバ（サーバ 2）に移行するには、仮想ドライブ（LUN）を転送準備完了としてマークするか、仮想ドライブを非表示にする処理を実行します。次に、そのディスクに割り当てるディスク ゾーン分割ポリシーを変更できます。仮想ドライブ管理の詳細については、『[Cisco UCS Manager Storage Management Guide](#)』の「*Disk Groups and Disk Configuration Policies*」のセクションを参照してください。

ディスク ゾーン分割ポリシーの作成

Procedure

| | Command or Action | Purpose |
|--------|--|---|
| ステップ 1 | UCS-A# scope org <i>org-name</i> | 指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。 |
| ステップ 2 | UCS-A org/ # create disk-zoning-policy <i>diskzoning policy-name</i> | 指定した名前のディスク ゾーン分割ポリシーを作成します。 |
| ステップ 3 | UCS-A /org/disk-zoning-policy* # commit-buffer | トランザクションをシステムの設定にコミットします。 |

Example

次の例では、dzp1 ディスク ゾーン分割ポリシーを作成します。

```
UCS-A# scope org
```

```
UCS-A /org # create disk-zoning-policy dzpl
UCS-A /org/disk-zoning-policy*# commit-buffer
UCS-A /org/disk-zoning-policy#
```

ディスク スロットの作成と所有権の割り当て

Procedure

| | Command or Action | Purpose |
|--------|--|---|
| ステップ 1 | UCS-A# scope org <i>org-name</i> | 指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。 |
| ステップ 2 | UCS-A org/ # disk-zoning-policy <i>disk-zoning-policy-name</i> | ディスク ゾーン分割ポリシーに移動します。 |
| ステップ 3 | UCS-A org/disk-zoning-policy # create disk-slot <i>slot-id</i> | 指定したスロット番号のディスク スロットを作成します。 |
| ステップ 4 | UCS-A org/disk-zoning-policy/disk-slot* # set ownership <i>ownership-type</i> { <i>chassis-global-hot-spare</i> { <i>dedicated</i> { <i>shared</i> { <i>unassigned</i> } | <p>ディスクの所有権を次のいずれかに指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • chassis-global-hot-spare : シアードグローバルホットスペア • dedicated : 専用 <p>リリース 3.2(3a) 以降、Cisco UCS Manager は、ディスク スロットごとに単一の DiskPort を設定することによって、ディスクへの単一パスアクセスを有効にすることができます。これにより、サーバは単一のデバイスのみを検出し、マルチパス設定を避けることができます。</p> <p>ドライブのパスのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • path-both (デフォルト)- ドライブパスは両方の SAS エクспанダにゾーニングされます。 • path-0 - ドライブパスは、SAS エクспанダ 1 にゾーニングされます。 |

| | Command or Action | Purpose |
|--------|---|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> • path-1 - ドライブパスは、SAS エクспанダ2にゾーニングされます。 <p>drivepathを設定するには、次のコマンドを使用します。</p> <pre>set drivepath drivepath{path-0/path-1/path-both}</pre> <ul style="list-style-type: none"> • shared : 共有 <p>Note デュアル HBA コントローラを使用する場合は、特定の条件下では共有モードを使用できません。デュアル HBA コントローラの共有モードの条件を確認するには、Table 3: デュアル HBA コントローラの共有モードの制約事項, on page 15を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • unassigned : 未割り当て |
| ステップ 5 | UCS-A org/disk-zoning-policy/disk-slot* # create controller-ref server-id sas controller-id | 指定したサーバスロットのコントローラ参照を作成します。 |
| ステップ 6 | UCS-A org/disk-zoning-policy/disk-slot # commit-buffer | トランザクションをコミットします。 |

Table 3: デュアル HBA コントローラの共有モードの制約事項

| サーバ | HDD トレイ | コントローラ | 共有モードのサポート |
|-----------------|---------|----------|------------|
| Cisco UCS C3260 | 非対応 | デュアル HBA | サポート対象外 |
| Cisco UCS C3260 | HDD トレイ | デュアル HBA | サポート対象外 |
| 事前プロビジョニング | HDD トレイ | デュアル HBA | サポート対象外 |

Example

次の例では、ディスクスロット1を作成して所有権を共有に設定し、サーバスロット1のコントローラ参照を作成してトランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # scope disk-zoning-policy test
UCS-A /org/disk-zoning-policy* # create disk-slot 1
UCS-A /org/disk-zoning-policy/disk-slot* # set ownership shared
UCS-A /org/disk-zoning-policy/disk-slot* # create controller-ref 1 sas 1
UCS-A /org/disk-zoning-policy/disk-slot* # create controller-ref 2 sas 1
UCS-A /org/disk-zoning-policy/disk-slot* #commit-buffer
UCS-A /org/disk-zoning-policy/disk-slot #
```

シャーシプロファイルへのディスクゾーン分割ポリシーの関連付け**Procedure**

| | Command or Action | Purpose |
|--------|--|---|
| ステップ 1 | UCS-A# scope org <i>org-name</i> | 指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。 |
| ステップ 2 | UCS-A org/ # create chassis-profile <i>chassis-profile-name</i> | 指定した名前で作成したシャーシプロファイルを作成します。 |
| ステップ 3 | UCS-A org/chassis-profile* # set disk-zoning-policy <i>disk-zoning-policy</i> | 指定したディスクゾーン分割ポリシーを設定します。 |
| ステップ 4 | UCS-A org/chassis-profile* # commit-buffer | トランザクションをコミットします。 |
| ステップ 5 | UCS-A org/chassis-profile # associate chassis <i>chassis-id</i> | ディスクゾーン分割ポリシーに含まれるディスクを、指定したシャーシ番号のシャーシに関連付けます。 |

Example

次の例では、ch1 シャーシプロファイルを作成してディスクゾーン分割ポリシー all56shared を設定し、トランザクションをコミットして all56shared ポリシーに含まれるディスクをシャーシ3に関連付けます。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # create chassis-profile ch1
UCS-A /org/chassis-profile* # set disk-zoning-policy all56shared
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile # associate chassis 3
UCS-A /org/fw-chassis-pack/pack-image #
```


ディスクの移行

1つのサーバから別のサーバへゾーン分割されているディスクを移行する前に、転送準備完了として仮想ドライブ (LUN) をマークするか、または仮想ドライブの非表示操作を実行する必要があります。これにより、サービスプロファイルからのすべての参照がディスクの移行前に削除されたことを確認します。仮想ドライブの詳細については、『』の「virtual drives」セクションを参照してください。Cisco UCS Manager リリース 3.2 ストレージ管理ガイド

Procedure

| | Command or Action | Purpose |
|--------|--|--|
| ステップ 1 | UCS-A# scope chassis シャーシ番号 | 指定したシャーシのシャーシ モードを開始します。 |
| ステップ 2 | UCS-A /chassis# scope virtual-drive-container <i>virtual-drive-container-num</i> | 指定した番号の仮想ドライブ コンテナに移動します。 |
| ステップ 3 | UCS-A /chassis/virtual-drive-container# scope virtual-drive <i>virtual-drive--num</i> | 指定した仮想ドライブ コンテナの仮想ドライブに移動します。 |
| ステップ 4 | UCS-A /chassis/virtual-drive-container/virtual-drive# scope virtual-drive <i>virtual-drive--num</i> set admin-state <i>admin-state</i> | 仮想ドライブの管理状態として、次のいずれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • clear-transport-ready : 仮想ドライブをトランスポート可能でなくなった状態として設定します。 • delete : 仮想ドライブを削除します。 • hide : 1つのサーバから別のサーバへ仮想ドライブを安全に移行するには、このオプションを選択します。 <p>Note ディスク グループのすべての仮想ドライブは、移行またはサーバノードから割り当て解除される前に、非表示としてマークされている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • transport-ready : 1つのサーバから別のサーバへ仮想ドライブを安全に |

| | Command or Action | Purpose |
|--------|--|--|
| | | <p>移行するには、このオプションを選択します。</p> <p>Note 仮想ドライブはトランスポート可能としてマークされると、ストレージコントローラによって、そのドライブ上でのすべてのIO操作がディセーブルになります。さらに、仮想ドライブのゾーン分割と外部構成のインポートが完了した後、仮想ドライブが動作可能になります。</p> |
| ステップ 5 | UCS-A /chassis/virtual-drive-container/virtual-drive# commit-buffer | トランザクションをシステムの設定にコミットします。 |

Example

次の例では、仮想ドライブ コンテナ 1 の仮想ドライブ 1001 の状態をトランスポート可能として設定します。

```
UCS-A# scope chassis
UCS-A /chassis# scope virtual-drive-container 1
UCS-A /chassis/virtual-drive-container# scope virtual-drive 1001
UCS-A /chassis/virtual-drive-container/virtual-drive# set admin-state transport-ready
UCS-A /chassis/virtual-drive-container/virtual-drive# commit-buffer
```

ストレージ エンクロージャ操作

シャーシレベルのストレージ エンクロージャの削除

物理的に取り外した後で、Cisco UCS ManagerのHDD拡張トレイに対応するストレージエンクロージャを削除できます。サーバレベルまたは他のシャーシレベルのストレージエンクロージャは削除できません。

Procedure

| | Command or Action | Purpose |
|--------|--|-------------------------------------|
| ステップ 1 | UCS-A # scope chassis <i>chassis-id</i> | 指定したシャーシでシャーシ モードを開始します。 |
| ステップ 2 | UCS-A /chassis # remove storage-enclosure <i>storage-enclosure-name</i> | 指定した名前のシャーシ レベルのストレージエンクロージャを削除します。 |

Example

次に、シャーシ 2 からストレージエンクロージャ 25 を削除する例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 2
UCS-A /chassis# remove storage-enclosure 25
UCS-A /chassis#
```

SAS エクスパンダ設定ポリシー

SAS エクスパンダ設定ポリシーの作成

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|--|
| ステップ 1 | UCS-A# scope org <i>org-name</i> | 指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。 |
| ステップ 2 | UCS-A org/ # create sas-expander-configuration-policy <i>sas-expander-configuration-policy-name</i> | 指定されたポリシー名で SAS エクスパンダ設定ポリシーを作成します。 |
| ステップ 3 | (任意) UCS-A /org/sas-expander-configuration-policy* # set descr <i>description</i> | ポリシーの説明を記します。 |
| ステップ 4 | (任意) UCS-A /org/sas-expander-configuration-policy* # set 6g-12g-mixed-mode <i>disabled/enabled/no-change</i> | (注) [6G-12G Mixed Mode]モードを有効または無効にするには、システムが再起動します。 • [Disabled] : このポリシーでは接続管理が無効になっているため、12G |

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|---|
| | | <p>が使用可能でも SAS エクスパンダは 6G の速度のみを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Enabled] : このポリシーでは接続管理が有効になっており、可用性に基づいて 6G と 12G 間で速度をインテリジェントに切り替えます。 • [No Change] (デフォルト) : 事前の設定が保持されます。 |
| ステップ 5 | UCS-A /org/sas-expander-configuration-policy* # commit-buffer | トランザクションをシステムの設定にコミットします。 |

例

次の例では、secp1 SAS エクスパンダ設定ポリシーを作成します。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # create sas-expander-configuration-policy secp1
UCS-A /org/sas-expander-configuration-policy*# set 6g-12g-mixed-mode enabled
UCS-A /org/sas-expander-configuration-policy*# commit-buffer
UCS-A /org/sas-expander-configuration-policy#
```

SAS エクスパンダ設定ポリシーの削除

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|---|
| ステップ 1 | UCS-A# scope org <i>org-name</i> | 指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。 |
| ステップ 2 | UCS-A org/ # delete sas-expander-configuration-policy <i>sas-expander-configuration-policy-name</i> | 指定されたポリシー名と SAS エクスパンダ設定ポリシーを削除します。 |
| ステップ 3 | UCS-A /org* # commit-buffer | トランザクションをシステムの設定にコミットします。 |

例

次の例では、secp1 SAS エクスパンダ設定ポリシーを削除します。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # delete create sas-expander-configuration-policy secp1
UCS-A /org*# commit-buffer
UCS-A /org/#
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。